

北見オクトーバーフェスト2013

2013年10月16日(水)～10月19日(土)



ビールの本場ドイツの収穫祭にちなんで毎年10月に行われている北見オクトーバーフェスト2013が開催されます。約50銘柄の海外のビール・日本の地ビールを日替わりで堪能でき、フードコーナーもありオホーツクの旬の味覚が楽しめる。ビールの他にカクテルやノンアルコールカクテルも揃えてありますので、女性やお酒の苦手な方も是非参加されてはいかがでしょうか。

詳しくは、北見オクトーバーフェスト2013事務局
TEL.0157-32-9900(北見観光協会)

第61回 きたみ菊まつり

2013年10月19日(土)～11月3日(日)



北海道内でも最大級の規模を誇る菊まつりを今年も開催します。期間中、二万三千点にのぼる菊花展や、千五百点あまりが出品される菊花コンクール、また、NHK大河ドラマ「八重の桜」をテーマにした菊人形など盛りだくさん予定されています。土曜・日曜は素人縁日もあり、親子で楽しめます。サクサク食感の「菊花天丼」や焼肉等もぜひご賞味ください。

詳しくは、第61回北見菊まつり実行委員会事務局(北見市役所観光振興課内)TEL.0157-25-1244まで。

主催/北見観光協会・北見市

映画「キタキツネ物語」

— 35周年リニューアル版 —

日本映画史に残る「愛と涙」のドキュメンタリー・ドラマ
新たな感動とともに、全編完全リニューアル!



日本が涙したあの瞬間。
残酷で厳しいあの物語。
1978年、日本初の動物大作映画として公開された「キタキツネ物語」は、230万人もの観客動員を記録し、国民的大ヒットを遂げました。

10/19(土)ロードショー

イオン北見店4F イオンシネマ北見
TEL.0152-23-0101



網走出張所

建設コンサルタント業・測量業・補償コンサルタント業・建築設計
ISO 9001 : 2008認証登録



株式会社ドボク管理

本社 ●〒090-0801 北見市春光町1丁目24番地3 TEL.0157-26-3321 FAX.0157-22-7508
札幌支店 ●〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号 TEL.011-708-0708 FAX.011-708-7700
旭川支店 ●〒070-0831 旭川市旭町1条13丁目688番144 TEL.0166-54-7270 FAX.0166-51-1363
網走出張所 ●〒093-0076 網走市北6条西3丁目3番地 TEL.0152-43-4150 FAX.0152-43-4160



ホームページ <http://www.dobokukanri.co.jp/>



惑星の模型とプラネタリウム

ドボク管理 ECOユニット委員会
環境学習「プロジェクトWET」

特集 北網圏北見文化センター
プラネタリウム

株式会社ドボク管理

ドボク管理 ECOユニット委員会 環境学習「プロジェクトWET」



スライドによる学習

はじめに

当社では、東京商工会議所が主催するエコユニット登録を行っており、CSR(企業の社会的責任)の一環として、eco活動を行っています。今回は、新入社員の環境教育を目的として行った学習会とその中で実施した「プロジェクトWET」について、ご紹介したいと思います。

環境学習会

学習会では、①組織統治、②人件、③労働慣行、④環境、⑤公正な事業活動、⑥消費者課題、⑦コミュニティの社会的、経済的発展の観点から、企業が社会に与える影響について学びました。このうち、環境について掘り下げて、eco検定やエコユニット活動について学習しました。



手作リテキスト

当社のエコユニット活動

- **CO2排出量削減**
電気、ガス、油、水、紙などの使用資源削減
- **資源の収集**
エコキャップ・リングプル・紙などの再利用
- **美化活動**
道路や公園の清掃、河畔林の植樹活動
- **エコ設備の利用**
スカイキャッチャーやエコカーなどの利用
- **啓蒙活動**
地域情報紙の発行、eco検定勉強会開催など

プロジェクトWET

続いて、「水の大切さ」をテーマとして、プロジェクトWETを行いました。プロジェクトWETとは、水や水資源に対する認識・知識・理解を深め責任感を促すことを目標として開発された「水」に関する教育プログラムです。

アクティビティ①：青い惑星

まずは、アイスブレイク(緊張をほぐすためのきっかけ)として、「青い惑星」というアクティビティを行いました。「青い惑星」は、地球儀型のビーチボールを投げ合い、地球上の海と陸の表面積の比を統計的実験により比較し、地球が青い惑星と呼ばれる理由について考えるアクティビティです。実際に行ってみると、回数を重ねるにつれて、海と陸の比率(約7:3)に近づいて行きました。



地球儀型ビーチボール

アクティビティ②：驚異の旅

次に、地球の表面上の約71%が水であることを知ったうえで、実際に人間が使うことのできる水は、どの程度あるのか?「驚異の旅」というアクティビティを利用して考えました。「驚異の旅」は、自身が水の分子となってサイコロを転がし、出た行き先(水の存在する場所)に移動を繰り返すことで、水循環を体験するアクティビティです。水の状態や移動経路を体験することで、実際に使うことができる水がわずかであることを実感しました。

アクティビティ③：余波

最後に、災害や被害損失などを考えるアクティビティ「余波」を行いました。「余波」は、洪水のシミュレーションを行い、経済損失の推計や人間が受ける被害について考えることができます。本来は、格子状にマスを並べて行うのですが、建設コンサルタントとしての特徴を生かし、地図やマイラーを利用し、浸水範囲を設定しました。また、水のオリンピックというアクティビティを活用し、順位付けを行うことで、立地条件や建物の種類などを分類し、それぞれに応じた経済損失や防災面の費用対効果について考えました。



サイコロ

記録シート



ビーチボールによる統計実験

水のオリンピック



洪水シミュレーション

おわりに

参加者からは、「CSRやeco検定を知ることができた」、「水の大切さやエコ活動、防災について考えることができた」、「費用や土地利用の状況、環境への影響など、防災の難しさを考える良い機会になった」、「私のこれからしていく仕事がいかに社会に影響を与えていくのかを考えさせられた」などの声が寄せられました。このように当社では、社員の環境意識を高める活動を行っています。現在、当社には、3名のプロジェクトWETエデュケーターが在籍しています。このような活動を通じて、地域社会に貢献していきたいと考えています。

注意：プロジェクト WET のアクティビティを使用できるのはプロジェクト WET ジャパン認定のファシリテーターが指導する講習会を受講され、エデュケーター以上の資格を得られた方のみとなっております。日本では、公益財団法人河川財団が、プロジェクトWETジャパンとして活動しています。興味のある方は、以下 URL をご参照下さい。

<http://www.project-wet.jp/>

普段、夜空を見上げる機会はありますか？

日常的に広がる夜空を、

あえて見る機会は少なくありませんか？

夜空を見上げると輝く星たち。

星を見ていると心が癒される気持ちになりませんか？

そんな夜空の星座を忠実に再現でき、

日中でも気軽に見物できるのが

オホーツク地方で唯一、北網圏文化センターの

プラネタリウムです。

北網圏北見文化センター

プラネタリウム

★ 従来のプロジェクターは、ドーム周囲に40台の投影機を設置し、1つ1つスライド画像をセットして、順番に切り替えて投影するスライドプロジェクターを使用していました。(パラパラマンガの原理に近いイメージ)

今まで使っていたシステムは陳腐化しており、スライドプロジェクターも製造廃止だとわかっていました。しかし利用者により最新の映像や情報を高いクオリティで提供したいという思いから現在は全天周ハイビジョンに変更。新しいデジタルプロジェクターは、映像部分と黒背景をきちんと写しだし黒は黒として投影されます。そのためプロジェク



プロジェクターで投影するスライド

ターによる星空の投影も旧型に比べ著しく向上しました。

また、従来のスライドプロジェクターでは故障した際、メンテナンスしている期間は上映できませんでしたが、現在のシステムはバックアップ機(予備機)があるため、故障してもすぐ新しい機材と交換でき、上映に一切支障がでません。

★ ドーム全体に投影しているの、リアリティのある映像を楽しむことができます。隣の席が見えない程真っ暗になり平面映像ではなく360度映像なので自分の周り全てに映像が映り、その空間に入り込んだかのような臨場感溢れる迫力と没入感、物語の舞台や現場に立っているような立体感を体験することができます。今まで難しかった黒の映像を黒として投影できるので星空のシーンは見所です。

美術展とのコラボ上映(企画美術展関連イベントとして番組を上映)や、ドームをスクリーン代わりに映画やスライドの上映をするなど、講演会や研修会でも利用されています。これらの企画により従来に比べ入場者数は30%以上



プラネタリウム室の入口

増加しました。北見市外在住の利用者や、幅広い年齢層からも支持されリピーターも増加しています。

上映番組は天文・宇宙・科学に対する興味関心の育成をコンセプトに、利用者の反応やニーズに応えながら選んでいくそうです。プラネタリウムは星空を映し出すだけの堅苦しいイメージを抱いている方もいらっしゃると思いますが、映画を見に行くような感覚で利用できる場所です。

★ 番組は上映権というものがあ、決まった期間しか上映できないことになっています。学習投影用はいつでも提供できるよう永久上映の作品もありますが、それ以外は1年間上映の作品が多く、高額な作品の場合は1ヶ月のみの上映番組もあります。

従来のスライドプロジェクターでは番組変更莫大な時間を要するため、番組の切替は半年に一度、1日



プラネタリウムの操作盤



親子連れでにぎわうプラネタリウム室

3回の上映時間全て同じ番組でしたが、現在のデジタルプロジェクターはアイコンをダブルクリックするだけでどの番組でも上映可能なため、1日3回とも違った番組を上映しています。

★ 同館で、定期的に無料で行っている天体観望会では、身近に感じてもらえるようにと北見の星空をメインに解説をしています。

プラネタリウム機を使ってその時期に見頃な流星群や惑星など少し深い内容で学校の授業とは違った角度から、天文台の研究者や学校の教員を講師に迎え解説を行っています。天気が良ければ望遠鏡で惑星などその時見ごろの天体を観測することもあります。また、子供たちと対話しながら星座を探すなど、利用者にとっても喜ばれています。

今回取材にご協力いただいた、北網圏北見文化センターの多田さんは学



学芸員の多田さん



北見から見える星空

生時代にボランティアとして働いていた時、望遠鏡を覗いたおじいさんが月を見て言った「月ってこんなにデコボコしているんだ、すごいね!」の言葉で天文の学芸員になろうと決意したそうです。同館に赴任するまで長い年月がかかりましたが決意は固く、市の職員になって20年、北網圏北見文化センターへ赴任されました。赴任2年目でスライドプロジェクターから全天周ハイビジョンに変更された第一人者であり、星を見るためだけに海外旅行するほどの星好きの方。

★ 北網圏北見文化センターはオホーツク地方唯一のプラネタリウムなので、「北網圏北見文化センターへ行きたい!」「そこに行けば見ることも知ることができる」と思われる運営・指導を心がけているそうです。

天文に関する情報も今は、インターネットや地上波はもちろん、BS・CSなどでも豊富に入手することができます。しかし、天文観測の技術も格段に進歩しており、昨日の情報がすでに古いものになっていたりします。当館では、その時最新の正確な天文情報を提供することはもちろんですが、あふれる情報を正しく判断し理解することができるよう、情報が常に変化していくことなど、その背景についても伝えられるようにしています。今後はプロジェクターの機能

を有効に活用できるイベント等も企画し、来場者に喜んでいただきたいと考えています。とおっしゃっていました。

ちなみに、特等席はどこですか?と伺うと、「投影機が邪魔にならず、南側の空が見やすい位置がお勧めです。当館の場合、中央から後方にかけての左右の座席が見やすいですよ」との事でした。



北網圏北見文化センター

北網圏北見文化センター

〒090-0015 北海道北見市公園町1

TEL.0157-23-6700 FAX.0157-31-8344

<http://business4.plala.or.jp/bunsen21/index.html>

【開館時間】9:30~16:30